

## 北海道札幌白陵高等学校

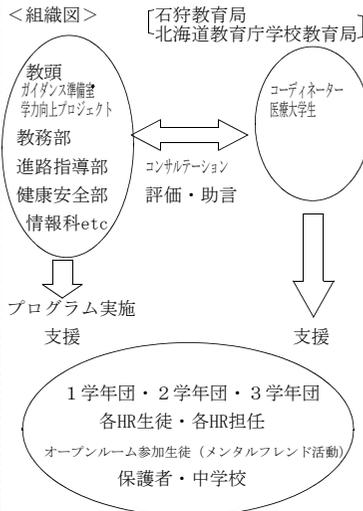
課程 全日制  
 学科 普通科  
 生徒数 508名

### 1 事業のねらい

- 1 自分のよさを伸ばし他者を尊重できる生徒を育てることを目指し、自尊感情、自己有用感をはぐくむ体験活動や開発的な教育相談を導入すること、また他者とのかかわりの中で好ましい人間関係を構築する能力を育むこと
- 2 本校生徒の特質として、義務教育段階における不登校体験者や教育相談等の支援の必要な生徒が多い傾向があることから、保護者及び中学校と連携し、生徒への教育相談的な関わり方を継続すること、また生徒個々の自己指導能力を高め、生涯にわたって生きる力を高めること
- 3 昨年度の取組を継続し発展させること

### 2 取組の経過

- 4月 生活実態アンケート・SGE研修・SGE演習①
- 5月 学級適応検査①・SGE演習②
- 6月 SGE演習③・④
- 9月 SGE演習⑤
- 10月 SGE研修⑥・(臨床心理臨地実習受け入れ)
- 11月 (生徒会フォーラム参加)
- 12月 SGE研修⑦・メンタルフレンド活動(～3月)・学級適応検査②・メンタルヘルスアセスメント・教員研修会  
以後予定(含 来年度)
- 1月 (SGE演習⑧・メンタルヘルスアセスメントフィードバック説明会)
- 2月～(生徒向けアサーショントレーニング・SGEに対するコンサルテーション・ピアサポートについてのコンサルテーション・オリジナルチェックシート作成・生徒カルテ作成・生徒指導事故防止プログラム作成・H23宿泊研修プログラムに対するコンサルテーション・今後の連携に向けての要領作成・校内カレンダーへの組み入れetc)



### 3 主な取組の内容

#### 1 SGE(構成的グループエンカウンター)演習

相手との本音のふれあいを通して、新しい自分に気づくこと、その気づきを生かし人とのかかわり方について考えることをねらいとし1、2学年を対象に実施した。

- ・演習① クラスメイトとうまくやるために
- ・演習② コミュニケーションを学ぶ
- ・演習③ コミュニケーション上手になるために
- ・演習④ 信頼してみよう、されてみよう
- ・演習⑤ お互いを理解するために
- ・演習⑥ みんなで協力しよう
- ・演習⑦ お互いを認め合う
- ・演習⑧ 相手のことを考える

#### 生徒の感想

- ・楽しかった、まあ役に立った、ためになった、交流が深まった、人見知りしなくなった、みんなの考えていることを知ることができた、クラスの人としゃべるきっかけになった、(人は)見た目と違うんだと思えた

#### 2 学級適応検査

生徒個々及び、クラスの状況を客観的に把握する資料とすること、また、生徒自身が望ましい人間関係を構築し、より良い学校生活を送る助けになることをねらいとし1、2学年を対象に実施する。(1回目5月 2回目12月 データ分析・アセスシート作成医療大スタッフ)

#### 3 メンタルヘルスアンケート及びアセスメント

生徒のメンタルヘルスの状況を的確に把握し、結果を生徒に還元することで、生徒が自己理解を深め、自らの課題や悩みの解決の糸口に気づき、さらに望ましい人間関係を構築することをねらいとし、1学年を対象に実施した。(平成21年度より継続して実施。データ分析・アセスシートの作成は、医療大スタッフによる。)

#### 4 校内研修会

平成21年度は4回、平成22年度は1回実施した。コーディネーターを講師とし、生徒、教員、保護者のコミュニケーションスキル、教育相談スキルアップを図ることをねらいとした。(本年度テーマ=学級適応検査の具体的な活用法について)

#### 5 メンタルフレンド活動

この取組は、北海道医療大学生が「メンタルフレンド」となり、教員とは異なる立場から生徒のメンタル面、学習面について直接支援を行うものであり、毎週水曜日の放課後実施している。オープンルームを設定し、希望する生徒が参加しやすい環境の下、学習支援、懇談等を通して生徒のコミュニケーション力を高めることをねらいとしている。



#### 4 成果と課題

- 成果
    - 日々の様々な教育活動と相まって、各学年、学級とも指導の経過とともに、生徒間、生徒と教員間の好ましい人間関係の醸成が進んだ。本プログラムは、人間関係づくりのきっかけトレーニングという意味で、また場の提供という意味で効果があったと考えている。
    - また今年度、メンタルフレンド活動を一定期間継続しているが、これまで5回の実施で延べ90数名が参加している。生徒の表情、感想からも毎回よい刺激を受けていることが伝わり、担当したオープンルーム実行委員の教員の受け止め方も肯定的である。メンタルフレンドの事前研修、リスク管理等留意すべき点は多いが、有意義だったと評価している。
    - また、これらの取組によるものと断定することはできないが、次の指標について、改善が図られた。
  - ・中途退学者数
    - 本事業に取り組んだ今年度の中途退学者数は、前年同期に比べて、約3割減少した。
  - ・学級適応検査の結果
    - プログラムを実施した第1学年及び第2学年について、プログラム実施前・実施後に学級適応検査を実施して結果を比較したところ、支援の必要な生徒の数が減少した。
  - ・メンタルヘルスアンケートの結果
    - 第1学年において実施しているメンタルヘルスアンケートにおいて、プログラム実施前の平成21年度と平成22年度の結果を比較したところ、支援の必要な生徒の数が半減した。
- 課題
  - 「卒業時にはこうあってほしい」という目指す生徒像の実現のため、単発の実験的なプログラムに終わらせることなく、3年間を見通して継続実施可能なプログラムを完成させること。
- 次年度に向けて
  - プログラムの推進について、校内各分掌に位置付けたり、年間指導計画、シラバスに組み込んだりするなどして、学校内外の他の行事、生徒会活動、委員会活動とリンクさせるとともに、一層効果を高めていきたい。
  - 本プログラムの終了後も、関係機関との連携を進めるとともに、本校生徒及び保護者の実態にあった実施可能でかつ有効な活動を見極めながら、さらに多様な経験を積む機会を提供していきたい。